

て簡単に下る。この沢もナメが発達している。

やがて八段の滝。右岸をクライミングダウンする。この先で岩質が変わった。花崗岩が一度バラバラになりかけた所で再び固まったという感じの岩質となる。そして小滝が続く。一五時二〇分、二俣。左俣の方が水量はぐっと多い。

左俣を登り返し、予定通り小スリバチ沢を下ることに決め、ザックを置いて、国道三九九号まで偵察に出る。途中五段の滝があり、右岸を捲いて下った。国道到着一五時三〇分。

(記・西 和文)

〔タイム〕 下降開始(一四:一五)↓

二俣(一五:二〇)↓国道(一五:

三〇)

カラブ沢(尻滑沢)

一九八三年五月二八日

一〇時三五分、下降開始。一〇分程下ると沢に出た。こちらの方の沢もすぐ小滝をまじえたナメが出てくるが、下降到困難な所はない。やがて沢が急に明るくなる。杉の造林地である。管理が悪いのか、大雪に痛めつけられたのか、曲がったり、枝折れした杉が、ブッシュに負けまいと精一杯頭をもたげていた。

再び樹林帯の中に入る。二カ所で大岩が沢をふさいでいた。やがて一五段二

段の滝の上に出る。持参のおにぎりを食べてから、おもむろにザイルをとり出し、懸垂下降する。登ることならできそうな滝である。その先はすぐ国道であった。(記 一三:一四)

〔タイム〕 六三三段三角点・下降開始(一〇:三五)↓下降終了・国道(一二:二〇)

